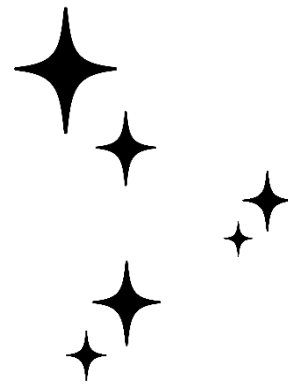


珪藻美術館 ちいさな・ちいさな・ガラスの世界

奥 修／文・写真 福音館書店

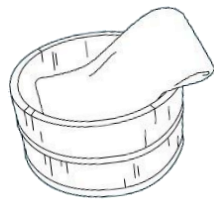
珪藻は0.1ミリにも満たない大きさの藻の仲間で、珪酸質ガラス質の殻をもっている。作者は珪藻を使ってアート作品を作っていて、作品は理科の実験で使用する「カバーガラス」に作られている。特殊な工程で磨きぬかれた珪藻は、光を反射して様々な色に輝く。ちいさなちいさなガラスの世界をのぞいてみよう！



保健室経由、かねやま本館。

松素 めぐり／著 講談社

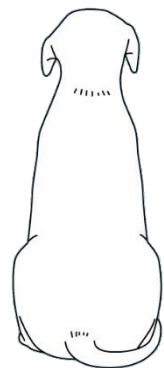
佐藤まえみは父の転勤に伴って一家で東京に引っ越してきた。中学で友人関係に悩まねみに不気味な白衣のおばさんは第二保健室を案内してくれた。不気味な白衣のおばさんは養護教諭の銀山先生で、まえみに休息をすすめてくれる。なんと第二保健室は、中学生専門の湯治場、かねやま本館への入り口だった。



災害にあったペットを救え 獣医師チームVMAT

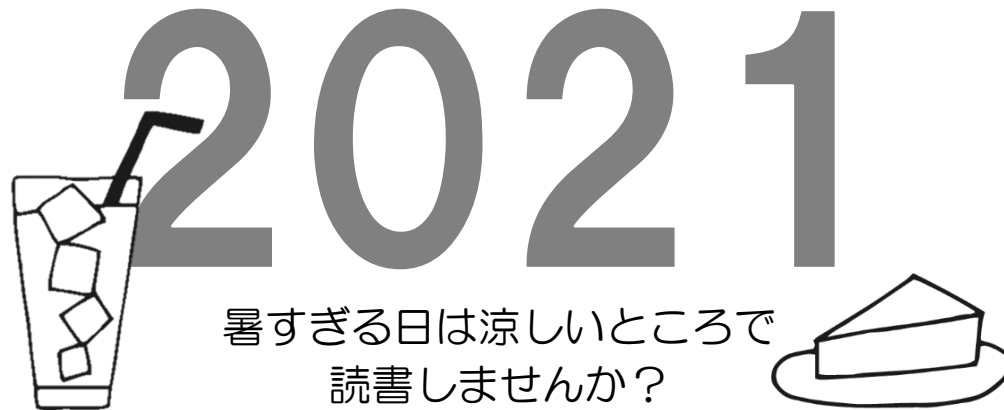
高橋 うらら／著 小峰書店

日本は地震や台風など災害の多い国です。災害が起きると、人間と同じように動物たちも被災します。そんな様子を経験した獣医師の「一つでも多くの動物の命を救いたい」という気持ちがVMAT（獣医師による救援チーム）を作るきっかけになりました。日本で活動を広げるために奮闘する獣医師たちの記録です。



夏のおてがみ

富田林市立図書館から中学生のみなさんへ



暑すぎる日は涼しいところで
読書しませんか？

彼方の光

シェリー・ピアソル／作 斎藤 倫子／訳 偕成社



1859年のアメリカ南部ケンタッキー州。ハックラー家の奴隷、少年サミュエルと厳しいながらも愛情深い母親代わりのリリー。サミュエルがまたもや奥様の怒りをかってしまった。その晩、老人奴隷ハリスンは覚悟を決めて、サミュエルとともにカナディーを目指す。二人は、人に助けられ、学び、自由を手にする。

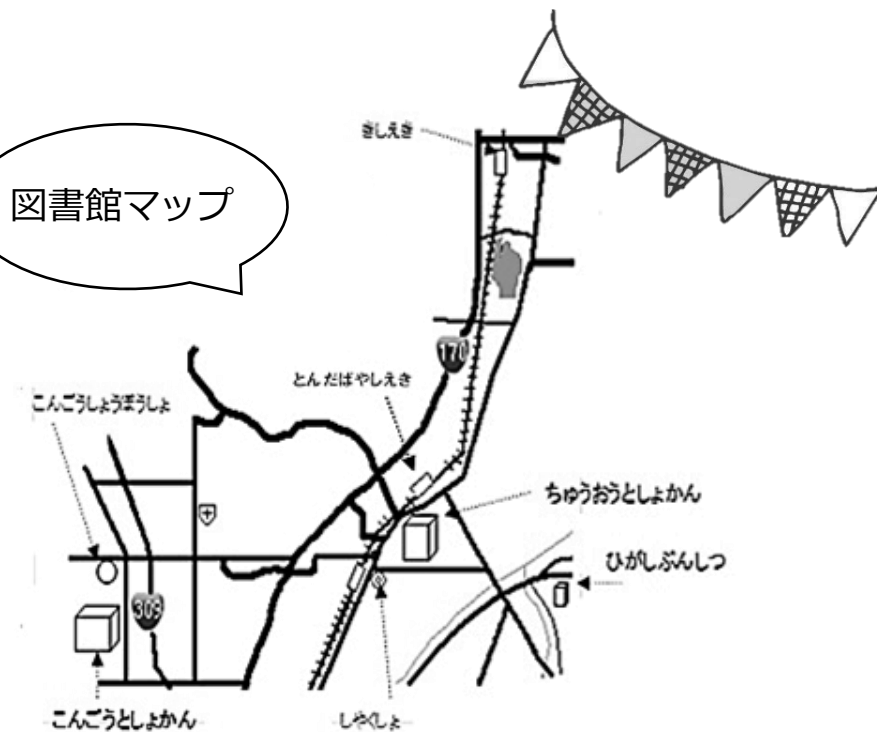
イーブン

村上 いいこ／作 小学館

美桜里は中学1年生。学校でうまくいかず、今は通えていない。ある日、同じように高校に通っていないトムと出会う。トムは話を聞いてくれるというが、美桜里はためらって話すことが出来ない。そんな美桜里にトムは「気持ちの上でイーブンじゃないから話せないのだろう」と言ってくれる。どうしたらイーブンな関係になれるのかな。



図書館マップ



地球村の子どもたち

途上国から見たSDGs②生命

石井 光太／著 少年写真新聞社

地球上の77億の人間の命は、残念ながら「不平等」である。パキスタンでは生まれたばかりの赤ちゃんの死亡率が日本の50倍も高い。しかし、日本人の生活の大部分は、海外の人たちの働きにささえられているのだ。それを見落としてはいけない。未来をよりよくするために、私達には不平等を少しでもなくす努力が必要である。



SDGsとは？

誰ひとり取り残されことなく、人類が安定してこの地球で暮らし続けることができるように、世界のさまざまな問題を整理し、解決に向けて具体的な目標を示したのが、SDGs（持続可能な開発目標）です。

2015年に国連で採択され、国際社会は一致団結して、2030年を目指してこの目標を達成しよう、と合意しました。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



梨の子ペリーナ イタリアのおかしばなし
イタロ・カルヴィーノ／再話 関口 英子／訳
酒井 駒子／絵 BL出版

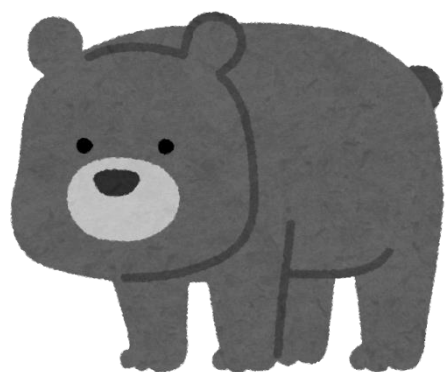


宮殿に梨^{なし}といっしょに納められた女の子は、ペリーナと名付けられ、働いていました。王子さまと仲良くなったペリーナに、王さまは宝ものをもってかえるよう言いつけ、宮殿から追い出しました。心優しく勇敢^{ゆうかん}なペリーナは、道をふさいでいたかまどの女や番犬、赤い川などの悩みを解決し、宝箱を持ち帰ります。

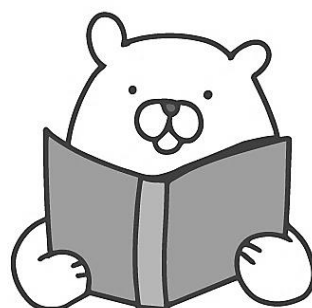
世界遺産知床の自然と人とヒグマの暮らし
伊藤 彰浩／写真 伊藤 かおり／文
少年写真新聞社



北海道の東、知床^{しれとこ}半島^{はんとう}にヒグマが暮らしています。ヒグマは冬に生まれます。春から初夏はオスとメスの出会いの季節。夏は食べ物を探すために山を下りて、人を困らせることもあります。秋はカラフトマスなどをたくさん食べ、冬ごもりの用意を始めます。知床では人とヒグマが距離を保って共存するため、いろいろな努力をしています。



貸出中の本は
予約を入れてね



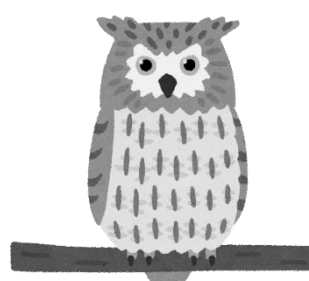
お蚕さんから糸と綿と
大西 暢夫／著 アリス館



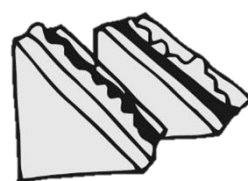
みなさんは蚕^{かいこ}という虫を知っていますか？桑の葉^{くわ}だけを食べて大きくなり、吐き出す繊維^{せんい}（糸の元になるもの）で殻^{から}を作ります。手間と時間がかかるため、今ではすっかり少なくなってしまった日本の養蚕^{ようさん}。この本では西村さん一家の丁寧な手仕事によって貴重な糸や綿が作りだされる過程が、蚕のお世話を通してよくわかります。

しまふくろうの森
前川 貴行／写真・文 あかね書房

北海道に、世界で最も大きいとされるふくろうの仲間が生きています。かつては北海道全域に生息していたとされていますが、今や人間の手によって保護されなければ生きていけない状況なのです。そんなしまふくろうのヒナの巣立ち、仲の良いつがい、狩りの意外な実力など、生命力^{あふ}溢れる姿が紹介されています。

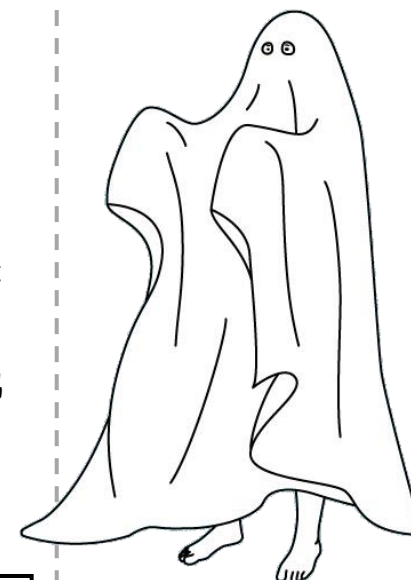


料理はすごい！ 小学生から使える、子どものためのはじめての料理本
秋元 さくら／（他）著 柴田書店



みなさんは、料理をしたことがありますか。料理好きな人はもちろん、やってみたいけれどあまり経験がないという人にも、おすすめなのがこの本です。人気の洋食、和食、中華料理のレシピを、四人のシェフが丁寧に教えてくれます。お菓子作りに興味がある人は、同じシリーズの本『お菓子はすごい!』もどうぞ。

怪物園
junaida／著 福音館書店



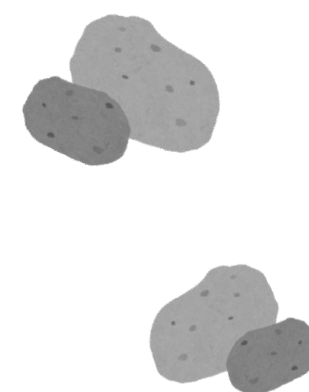
怪物園^{かいぶつえん}から外の世界へぬけだした怪物たちは、街へやってきます。怪物たちが、何日も行進をつづけるので子どもたちは外で遊べなくなり、家の中ですっかりたいくつしてしまいます。そこで段ボール箱をバスにして、子どもたちは空想^{くうそう}の旅に出発します。段ボールバスは気球になり、海へとやってきます。おや、海の底から怪物たちの声が聞こえます。

渋沢栄一伝 日本の未来を変えた男
小前 亮／作 小峰書店

2024年から新しく壱万円札の図柄に起用される渋沢栄一^{しぶさわえいいち}の一生を書いた本です。1840年、武蔵国血洗島村の農家に生まれた栄一は、平岡円四郎^{ひらおかえんしろう}という武士に出会ってから状況が大きく変わります。日本の教育、政治そして経済のために働くようになっていきます。



ジャガイモの大百科 まるごと探究!世界の作物
森 元幸／編 農山漁村文化協会



毎日、ごはんやおやつで食べているジャガイモ。約7000年前ペルーで作られていました。長い時間をかけ、江戸時代に日本にも伝わりました。今では150種類もの仲間がいます。畑で育てる方法や、食べ方も国ごとに違いがあります。身近な野菜にも、たくさんの物語があることを見つけて、どうやって食卓に並んだのか考えてみてください。